

稻作情報（寒鋤き）

～寒鋤きの重要性を再確認し収量・品質向上を目指す！！～

令和7年産は、6月下旬に降雨があったものの、その後は、高温多照により茎数は概ね平年並みとなりました。

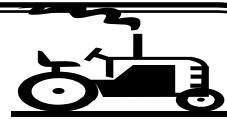
6月末の降雨により、ジャンボタニシの食害が見られたほか、

出穂期頃を中心にイネカメムシの発生が見られました。

水稻の収穫も終わり、来年に向け寒鋤きを行い、田んぼを労わりましょう。

※隣の人が鋤いていなくても自信をもって鋤いて下さい。お互いに啓発しましょう！！

田鋤きをしましよう！！（寒い時ほど効果が大きい）



其の一、ジャンボタニシ対策になります！！

○ジャンボタニシは亜熱帯に生息していた貝なので、寒さには非常に弱いです。

また、田圃の5cm程度の深さに潜っており表面に露出させることで死滅します。また、貝殻に傷を入れるだけでも死滅します。（寒いほど効果あり）

其の二、来年の除草効果になります！！

○表面に落ちた雑草の種子を深く埋没させる事により、種子の発芽を抑えます。

其の三、稻株の腐植を促進し、ガス害防止になります！！

○田植え間近になって鋤いても昨年の稻株等の腐植が進まず、田植えした後に有毒ガス（株元が黒くなる）が発生し根傷みの原因になりますので、早い時期に鋤いて腐植促進に努めましょう。

其の四、腐植物を酸素に触れさせ、稻の初期生育が良くなります！！

○腐植物を表面に出して酸素に触れさせることで、窒素成分が発現します。この窒素成分は、稻の初期生育から徐々に供給されるので生育が良好になります。

其の五、麦のカモ被害の対策になります！

○近年、カモ被害が増えています。寒鋤をすることでカモの被害対策になります。

高低直しと併せて寒鋤を行いましょう！！

また、寒鋤の前に土壌改良剤（ケイ鉄等）を施用しましょう！！